

あすなろ

第7号

発行 弘前大学教育学部
 同窓会
 〒036 弘前市大字文京町1
 TEL 0172(36)2111 代表
 編集事務
 弘前市平岡町72
 弘前市立第二中学校内
 TEL 0172(32)3642



教育学部

飛躍の年に



同窓会長
 太田 薫

新しい春を迎えまして、会員のみなさまには益々ご健勝のことと、心からお慶び申し上げます。

本会も会員みなさまのご協力、とりわけ、支部役員のご労苦によりまして、「組織の強化」という重点的な事業も順調に推進され、また、財政面では、運営基金も一千五百万円を積立てることができ、誠にご同慶のいたりでございます。

今後は、二千万円を目標に活動を継続して参りたいと考えております。

ふりかえってみますと、二年コースの修了生及び第一回の卒業生がでてから、三十五年、三十三年を数えるに至ります。

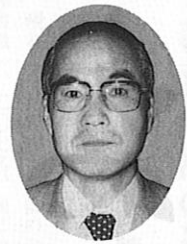
この間、本会の同窓生は九千有余名に及び、教育行政及び現場においてそれぞれ重要な地位、役割りを占めております。

それだけに、教育界への批判の多い今日、われわれの一挙手一投足が、そのまま本会の存在なり活動を左右することになるものと思われまます。

どうか、その点を十分ご留意の上、益々、自重自愛、支部内の連絡提携及び活動をすすめられますよう、衷心よりお願い申し上げます。

(昭和六十一年 元旦)

教育学部昨今



教育学部長

竹内 照宗

新春を迎え、教育学部同窓会会員の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

皆様の母校教育学部が、昭和二十四年に誕生してから昭和五十八年までの発展充実の概略を、私は「あすなろ」第6号「教育学部今昔」でふり返って参りました。

今や、わが学部は、昭和五十三年度以降学生定員の増減はありませんが、六教員養成課程、一学年合計三百七十名の学部学生と、教育専攻科五名を加える学生数を擁しています。学部の教官定員は九十三名で、微増の状況にあります。

教育内容の整備充実は、低成長時代に入り僅かずつではあります。五十九年度には幼児心理学を、六十年には技術科教育法を、そして六十一年度には生徒指導の学科目の増設がみとめられるなど、着実に進められています。これからは、近い将来に教育学部に修士課程大学院教育研究科の設置をめざしての基礎作り

でもあります。

また、新しい情報化社会時代の、教育のひろがりや深まりに充分対応できる教員養成をめざしての、教育実習部門と教科教育部門を中軸とした、附属教育実践研究指導センターの設置をめざしての努力を重ねています。

アメリカ、テネシー大学と姉妹校になって、毎年二、三名の教育学部在学生在を送ったり、同学からの学生を受け容れてから早や十年を経過し、昨年五月にはテネシー大学マーチン校からスミス学長等一行を迎えて記念式典を挙行し、六月には牧野学長がテネシー大学マーチン校の卒業式に招かれ、十周年を期に、昨秋から技術科の佐藤武司助教が、マーチン校に六ヶ月の予定で出講中であり、学部教官の交流も開始致しました。そのほかサウス・カロライナ大学に、毎年一名の在学生を送ったり等も行っています。

また、東北地区教員養成大学・学部では、わが教育学部だけがおこなっているアゼアン諸国からの教員研修留学生を、昭和五十八年度から毎年三、四名受け容れており、アメリカからはテネシー大学以外からの研究生も受け容れるとともに従来からのブラジル日系留学生などを迎えて、わが国の国際化社会に対応するニーズに添えて、国際交流にも力を注いでいます。

今後とも会員各位におかれては、健康に御留意の上、研鑽精進によって益々同窓会が発展の一途をたどることを念願い

たします。そして、母校の発展計画実現のために、今や九千余名を数える同窓会員の皆様の一層の御支援と御協力を、心から希望して止まないものです。

昭和60年度

総会報告

昭和60年度、弘大教育学部同窓会総会は、昭和60年5月5日(日)午後一時より、弘前市百石町「大和家」において開催された。竹内教育学部長、山田事務長補佐の大学側をはじめ、太田同窓会長、県下各支部約二十名の同窓会員の出席で、熱心な討議がなされ、同窓会の方向づけが示された話し合いが行われた。議事等承認され来年度予算について一部修正があった。

役員改選は太田会長が再選された。

◇庶務報告

- 昭58・12・12 県教育委定例懇談会
- 59・1・23 会報「あすなろ」6号発行
- 59・1・30 終身会費納入依頼
- 59・2・10 新入会費納入依頼
- 59・3・22 弘大卒業式祝賀会
- 59・12・15 新入生会費督促状送付
- 59・12・18 教育学部援助40万
- 60・1・17 各支部へ事業延期文書発送
- 60・2・1 教育学部厚生係との事務打ち合わせ
- 60・2・8 支部活動費送金
- 60・2・12 事務打ち合わせ(厚生係)
- 60・2・15 事務局・学部長・事務長

事務長補佐との懇親会

60・2・16

終身会費納入依頼

60・3・22

新入会費納入依頼

60・4・18

弘大卒業式、祝賀会

60・5・5

60年度総会

60・12・25

県教委定例懇談会

61・1・28

会報「あすなろ」7号発行

◇役員

- 会長 太田 薫(弘前北辰中学校)
- 副会長 柿崎 忠雄(青森東中学校)
- 監査 塩原 鉄郎(弘大地学教授)
- 長内 耕三(黒石牡丹平小学校)
- 各地区支部長
- 三 八 佐藤 公彦(八戸鮫中学校)
- 下 北 佐々木陽一(下北田代中学校)
- 上 十 三 千葉 治昭(上北教育事務所)
- 東 青 伊藤 孝(県教育庁義務教育班主任指導主事)
- 南 黒 森 隆一(黒石六郷中学校)
- 西 北 五 伊藤 怜(北郡内湯中学校)
- 中 弘 芳賀 弘三(弘前一中教頭)
- 大 学 工藤 睦男(弘大経済学助教)
- 事務局 石岡 博(弘南中)
- 赤石 和夫(青柳小教頭)
- 笹森 義男(市教委)
- 阿部 哲夫(弘二中)
- 今 廣志(弘一中)

昭和61年度採用試験結果

同窓会・県教委 定例懇談会

県教育委員会と弘大教育学部同窓会との定例採用懇談会が、12月25日(水)午後5時から、青森ランドホテルを会場にして開催された。県教委からは山崎教育次長以下3名、同窓会から太田会長以下10名の各支部代表が出席し、新採用に関する見通し、情報交換、今後に望まれる事等、内容のある話し合いがなされた。

情報交換では石川学務課長、気田課長補佐、池田義務教育班長から今年の採用状況の詳細な数があげられ説明がされたが、今年度は昨年度より大巾な採用減が予定されており、A又はB合格者にあっても、希望地によっては採用もれも考えられると、厳しい見通しについての発表であった。

採用試験、面接等を通しての教育学部生の状況や要望については次のように出されているので今後の参考にしてほしい。一般的に教育学部生はペーパーテストには強い傾向があるが、面接や小論文で力を発揮できない傾向が見られる。その理由の大きなものとして、受験生の「教育観」が甘いように感じられる点である。県としては「子どもの好きな先生」がほしいのであって、この面について面接や小論文では画一的な答が多く、教育雑誌そのままのパターン的な答えを求めている

るのではない事を知ってほしい。もっと自分の教育観について述べてほしいものである。同じ教育学部生にあっても、他県出身者がこの面で特に優れている点は地元出身者も見習ってほしいものである。

所持免許は中学校を志す学生にあっては、2教科ぐらいあった方が条件として望ましい。又、昨年度あたりから、過年度卒業生の合格が多くなっている傾向が見られる。過年度生の中でも講師経験を持つ者が、教育観の面で現場体験が役に立っている事が面接結果からも良くわかる。更に、部活動、ボランティア活動などを経験して来ている者も考えがしっかりとっているように感じられる。

今後小学校の児童数減に続いて、中学校の生徒数減が予想されているので、来年度受験を志す者にあつてはこの点から心して頑張ってほしいものである。

採用試験結果

(含む過年度)

- 受験者 一、九三七 合格 五三〇四
- (他大学 三六一 教育学部 一七三三)
- 教育学部一七三 内訳(小学校 一〇
- 七 中学校 四五 高校 一〇
- 養護 一一)

中学校教科別 国語4、社会2、数学8、理科9、音楽8、美術4、保健3、技術2、家1、英語4
現役 二二七、過年度 五〇

青森県教員採用試験合格状況調

(教育学部在学生の分)

	1次受験者	2次受験者	2次合格者	合格率	A合格者	B合格者
小学校教員養成課程	104 (52)	95 (51)	68 (40)	65	54 (35)	14 (5)
中学校教員養成課程	64 (22)	46 (15)	36 (12)	56	24 (9)	12 (3)
養護学校教員養成課程	6 (3)	6 (3)	4 (2)	67	4 (2)	0
幼稚園教員養成課程	8 (7)	8 (7)	7 (6)	88	6 (5)	1 (1)
特別教科(看護)教員養成課程	1 (1)	1 (1)	1 (1)	100	1 (1)	0
養護教諭養成課程	15 (15)	12 (12)	7 (7)	47	4 (4)	3 (3)
専攻科	1	1	0	0	0	0
合計	199 (100)	169 (89)	123 (68)	62	93 (56)	30 (12)

※()は女子で内数

昭和58年度収支決算報告 (58.8.1~59.4.30)

収入の部	予算	決算
項目		
準終身会費	1,500,000	1,350,000
終身会費	600,000	402,950
繰越収入	878,502	878,502
繰越雑収入	11,498	228,411
収入計	2,990,000	2,859,863
支出の部		
総評議会費	80,000	80,000
支部補助費	50,000	14,230
支会費	260,000	260,000
事務費	100,000	69,450
会費徴収費	30,000	10,000
通信費	50,000	15,730
就職対策費	350,000	580,000
就業対策費	160,000	105,000
祝賀費	150,000	110,000
名簿作成費	1,500,000	1,000,000
雑費	160,000	0
雑費	100,000	7,750
繰越金	2,990,000	2,252,160
繰越金	607,703	

昭和59年度収支決算報告 (59.5.1~60.4.30)

収入の部	予算	決算
項目		
準終身会費	1,500,000	1,750,000
終身会費	600,000	228,000
繰越収入	607,703	607,703
繰越雑収入	20,000	9,643
収入計	2,727,703	2,603,346
支出の部		
総評議会費	80,000	0
支部補助費	50,000	0
支会費	260,000	240,000
事務費	100,000	33,000
会費徴収費	30,000	15,000
通信費	350,000	8,200
就職対策費	180,000	400,000
就業対策費	160,000	0
祝賀費	150,000	100,000
名簿作成費	1,400,000	500,000
雑費	0	0
雑費	97,703	58,600
繰越金	2,727,703	1,354,800
繰越金	1,248,546	
特別会計基金	14,495,751	(58、59年度)

昭和60年度予算案

収入の部	予算
項目	
準終身会費	0
終身会費	600,000
繰越収入	1,248,546
繰越雑収入	20,000
収入計	1,868,546
支出の部	
総評議会費	80,000
支部補助費	50,000
支会費	260,000
事務費	50,000
会費徴収費	30,000
通信費	50,000
就職対策費	600,000
就業対策費	150,000
祝賀費	100,000
名簿整理費	0
雑費	400,000
雑費	98,546
計	1,868,546

(総会修正事項、準会員収入は61年度入学生徒なので61年度収入予算とし、今年度は0とする。)

教育学部の近況

工藤 睦男
(二回卒・学部教官)

現在(二月現在) 学部の学生数は在籍者数一、二〇七名、他に教養部に在籍中のもの三七一名、合計一、五七八名で教官数は九二名の大所帯である。五九年三月の卒業者数は三四九名、その内訳は小学課程一七一、中学課程八六、養護学校課程一七、幼稚園課程二三、看護課程一〇、養護教諭課程四二で、その他に専攻課二名が加えられる。また六〇年四月の入学生は三七〇名で定員一杯の入学である。

ここ二年前の退官教官をみると教育学の最上大門(東京家政学院短大)、絵画の鈴木信雄(死亡)、生物の塙順(病気のため)、体育の岩淵直作(定年)の諸先生で、新任教官は林尚男(国語科教育)、村山正明(教育学、加来浩(歴史学)、菅野幸宏(幼児心理、清水紀人(体育理論・体育史)、村田千尋(音楽理論・音楽史)、斉藤捷一(理科教育)の諸先生である。公園のレンガ校舎はもう懐かしい思い出となり、苦勞した当時の先生方も少なくなった。コンクリート校舎の林立するキャンパスには女子学生が溢れ、派出なマイカーの洪水で、考えごとをして歩くと自動車にひっかけられる。緑の芝生はどんだん駐車場に変えられ、なお追いつかない。

芝生で寝転んで話し合う学生の姿はもうみられない。よく「明治の人間はノッシ、ノッシと歩いた」といわれる。忙しい時代に生きるものとして一考してみることがあるのではないだろうか。

弘前生活を10倍楽しむ方法

- 1、弘前大学で発行している学園だより69号に新入生のために現在学生の今泉忠淳さんが次のことを載せていました。
 - 1、クラブ、サークルに入ろう(縦の人間つき合い貴重)
 - 2、観桜会に行こう(一升瓶持って弘前公園へ)
 - 3、弘前の町を歩こう(情緒あふれる城下町のたえずまい)
 - 4、津軽の自然を満喫しよう(十和田、竜飛、十二湖、暗門、その他温泉)
 - 5、なじみの店をつくらう(小さな酒場、喫茶店、定食屋、なんでもいい)
 - 6、ねぶたに参加しよう(今は弘大でねぶたを出している)
 - 7、先生と仲良くなろう(講義だけでなく、つきあおう・飲もう)
 - 8、旅に出よう(他の地方に行つて、弘前を見直そう)
 - 9、地酒を飲もう(白梅・松緑・etc、イッキ、イッキ)
 - 10、スキー、創作をしよう。
- 今も、昔も、学生時代の楽しみ方は変わっていないようです。何か足りないものがある諸氏も…。

東北インカレ 弘前開催!!

昭和60年6月28日から7月2日まで18種目40大学50人の参加で、弘前大が主催で開催された。参加数が年々増える中で大会スローガン「越えよ岩木、超えよ極限」のもと開催までの実行委員会の苦勞はたいへんなものだったと思います。ちなみに今回の成績は次の表ですが弘前大学の名がなかなか見あたらないのが残念です。

種目	優勝	準優勝
陸上競技	男子 仙台大学 女子 福島大学	学 福島大学 学 仙台大学
水泳	男子 仙台大学 女子 東北学院大学	学 仙台大学 学 福島大学
硬式野球	東北福祉大学	青森大学
準硬式野球	岩手大学	東北薬科大学
硬式卓球	男子 東北学院大学 女子 東北学院大学	東北大学 東北大学
軟式卓球	男子 東北福祉大学 女子 岩手大学	東北学院大学 東北学院大学
バスケットボール	男子 東北福祉大学 女子 山形大学	秋田経済法科大学 山形女子短期大学
バレーボール	男子 仙台大学 女子 東北福祉大学	東北学院大学 東北学院大学
バドミントン	男子 東北福祉大学 女子 東北福祉大学	弘前大学 東北学院大学
体操	男子 仙台大学 女子 仙台大学	東北学院大学 福島大学
弓道	男子 岩手大学 女子 福島大学	東北学院大学 東北福祉大学
剣道	男子 青森大学 女子 秋田経済法科大学	弘前大学 青森大学
柔道	東北学院大学	東北福祉大学
空手道	東北大学	日本大学工学部
サッカー	仙台大学	福島大学
ラグビー	岩手大学	弘前大学
ハンドボール	男子 東北学院大学 女子 東北福祉大学	仙台大学 東北学院大学
卓球	男子 東北福祉大学 女子 東北福祉大学	東北学院大学 秋田大学

採用試験に集団面接

県教委は今年の採用試験の面接を集団での討議形式にした。面接者は試験官2名の前で6〜8名程度が1グループとなり約30分間、自由に話し合う形式で行なわれた。討議課題は、①テレビと学習②わかる授業③クラブ活動と学習④体罰といじめ⑤学習塾、等で自由に意見を交換する形であるが、ただ漫然と過ごす大学生活ではなく、社会情勢や、今の直面する教育問題に強い関心があれば、話し合いの中に参加できないような面接となった。教育学部生の奮起と広い視野を有した教師を目ざして精進を期待したい。

事務局より

あすなる第七号をお届けします。昨年度は事務局の都合により会報編集できなかったことを深くお詫びします。県民を震撼させた事件が相次いで、発生した一年でした。教師は今何を求められているのか、何をなすべきか等、教育の原点を問われている年でもありません。

県内を占める同窓生の一挙一投足がそのまま県の教育に反映するものと考え、皆様方のご健康とご活躍をお祈り致します。